

て⁴¹⁾・「宝曆改曆後の編曆問題の推移と寛政改曆をめぐる問題点」⁴²⁾の二つは併せ読むべきものであろう。曆法の内容の粗雑については渡辺敏夫氏の「貞享補曆と宝曆改曆」⁴³⁾によって推察される。

おわりに

新田義貞が稲村ヶ崎で劔を投げ、そのおかげで？潮の引いた浜づたいに進入して鎌倉攻略に成功した話は有名であるが、そのときの潮の具合はどうであったのかと、checkしたくなる人がときたまあるらしく、2, 3回人からその計算に関して尋ねられたことがある。これについては計算が非常に得意であった小川清彦氏が、60年以上も前にちゃんと計算してある。「大平記“稲村ヶ崎長干のこと”の話」⁴⁴⁾というのがそれである。

どの分野の学問でも先学がどのようなことを研究発表しておられるかを知ることには大変だいなことで、知っていることによって無駄な計算をしなくてもすむ場合もある。その点天文曆学の分野は論文の数もすくなく知れる限り集めて読むことも可能である。紙数の関係もあってここには私のリストに採録した一部しか紹介できず、また天文史料関係、昔の文献に関するもの、星図・星宿・天球儀など、あるいは時刻制・総論的な分類に入れたものには全然触れなかった。ここに紹介しなかった論文の筆者ならびに読者の御諒解を願う次第である。

(本文に関する御質問は往復はがきで東京天文台・内田正男宛にお寄せ下さい)

19) 古事類苑月報, No. 37, 1970
 20) 天文総報, 14, 4, 1960
 21) 日本歴史, No. 163, 1961
 22) 近世文芸, No. 22, 1974
 23) 三浦古文化, No. 22, 1977
 24) 日本天文研究会報文, 2, 2, 1959
 25) 史学雑誌, 49, 12, 1938
 26) 歴史地理, 70, 10, 1937
 27) キリシタン文化研究会報, 13, 3, 1970
 28) 日本史攷究, No. 17, 1971
 29) 天文と気象, 1月号, 1957
 30) 国学院雑誌, 53, 2, 1952
 31) 日本歴史, No. 72, 1954
 32) 学燈, 61, 4, 1965
 33) 日本歴史, No. 199, 1964
 34) 科学史研究, No. 103, 1972
 35) 天文月報, 9, 11, 1917
 36) 史迹と美術, 41, 9, 1971
 37) 自家孔版, 1~26, 1953? ~ 58
 38) 東京天文台報, 14, 4, 15, 2, 1969 ~ 70
 39) 美しい幾何図形シリーズ, 33, 1979
 40) 数学史研究, 82, 1979
 41) 蘭学資料研究会報告, 127, 1963
 42) " , 157, 1964
 43) 日本天文研究会報文, 6, 1, 1974
 44) 天文月報, 8, 1, 1915

註

掲載誌	巻, 号	発表年
1) 日本歴史,	No. 22,	1950
2) " ,	No. 47,	1952
3) 天文月報,	24, 4,	1931
4) 東京天文台報,	18, 4,	1979
5) 科学史研究,	No. 3,	1942
6) 天文月報,	36, 2 ~ 4,	1943
7) " ,	36, 11,	"
8) " ,	36, 12,	"
9) " ,	35, 7, 8,	1942
10) 日本史攷究,	No. 13, 14,	1969
11) 高橋隆三先生喜寿記念論集,		1970
12) 土 ,	No. 87,	1967
13) 金沢文庫研究,	12, 2,	1966
14) 東京天文台報,	18, 1,	1977
15) 史学雑誌,	13, 1, 2,	1902
16) 皇学館大学紀要,		1963
17) 歴史地理,	91, 3,	1966
18) 史料編纂所報,	No. 1,	1966

お知らせ

第11回碁星会議

日時: 1981年3月28日(土)~29日(日)
 会場: 福岡市中央区桜坂3丁目13番14号
 「望洋荘」

くわしくは

〒810 福岡市中央区梅光園団地 4-412
 長田有司まで

☆ ☆ ☆